

2024年度 活動報告

公益財団法人フォーリン・プレスセンター
Foreign Press Center Japan



代表メッセージ

当センターが皆様から賜っておりますご支援とご協力に対し、心より御礼申し上げます。

当センターは、来る2026年10月に創立50周年を迎えます。今後も、外国メディアの取材が円滑に進むようにサポートするとともに、これまでに培ってきたネットワークを生かして、日本の皆様と外国メディアとの橋渡し役として、「素顔の日本」、「世界共通の課題に先駆け国家として取り組む日本」の姿を世界に伝えるべく取り組んでまいります。

以下に、当センターの2024年度活動報告をとりまとめましたのでご一読いただけると幸いです。



2025年7月

フォーリン・プレスセンター(FPCJ)理事長 児玉和夫

ミッション

FPCJは、日本に関する多様で正確な報道が世界中で行われるよう、外国メディアの取材活動を積極的に支援します。

更に、日本各地や様々な分野からの価値ある情報を発信します。

こうした活動を通じて「ありのままの日本」を世界に伝え、日本への理解を深めて、互いの文化や価値観を認め合う国際社会の構築に貢献します。

そして、世界の平和と発展のために変化をもたらすことを目指します。

Contents

1. FPCJの主な事業
2. 数字で見る2024年度のFPCJ
 - 日本に駐在する外国メディアとは？
 - 活動ダイジェスト
 - 活動の成果
3. 2024年度の事例
 - プレス・ブリーフィング
 - プレスツアー
 - 記者招聘
 - 取材イベント・国際ウェビナー・交流会
4. 支援した外国メディアの声
5. 賛助会員のご紹介
6. 財務会計報告
7. 団体概要

FPCJの主な事業

プレス・ブリーフィング

政治・経済から文化まで、現在の日本を理解してもらう上で重要なテーマについて、閣僚を含む政府関係者や有識者を招いて解説いただきます。

プレスツアー

主に東京を拠点にしている外国メディアの記者たちに、日本各地の魅力や特色ある産業などを取材する機会を提供します(グループでの取材旅行)。

記者招聘

世界各国から日本に記者を招き、それぞれの関心や日本の最新事情などを踏まえたプログラムで、現場取材やインタビューの機会を提供します。

プレスリリース配信・掲載

FPCJのネットワークを通じて、外国メディア記者や在日外国大使館関係者にプレスリリースを届けるほか、FPCJのウェブサイトにも掲載します。

取材イベント支援

世界に向けてオールジャパンで日本の魅力を発信するため、自治体等による外国メディア向けイベントの開催や個別の取材誘致を支援します。

個別取材協力

インタビューや現場取材のアレンジから取材先の助言まで、外国メディアからのリクエストに応じて取材や報道が円滑に進むようにサポートします。



数字で見る2024年度のFPCJ 日本に駐在する 外国メディアとは？

FPCJが支援する外国メディアの中心は、日本に駐在し、日本発のニュースを世界に発信している記者・カメラマンたちです。その数は、近隣のアジアや欧米を中心に430名を超えます。このほかにも、海外から多くのジャーナリストが取材のために訪日しています。

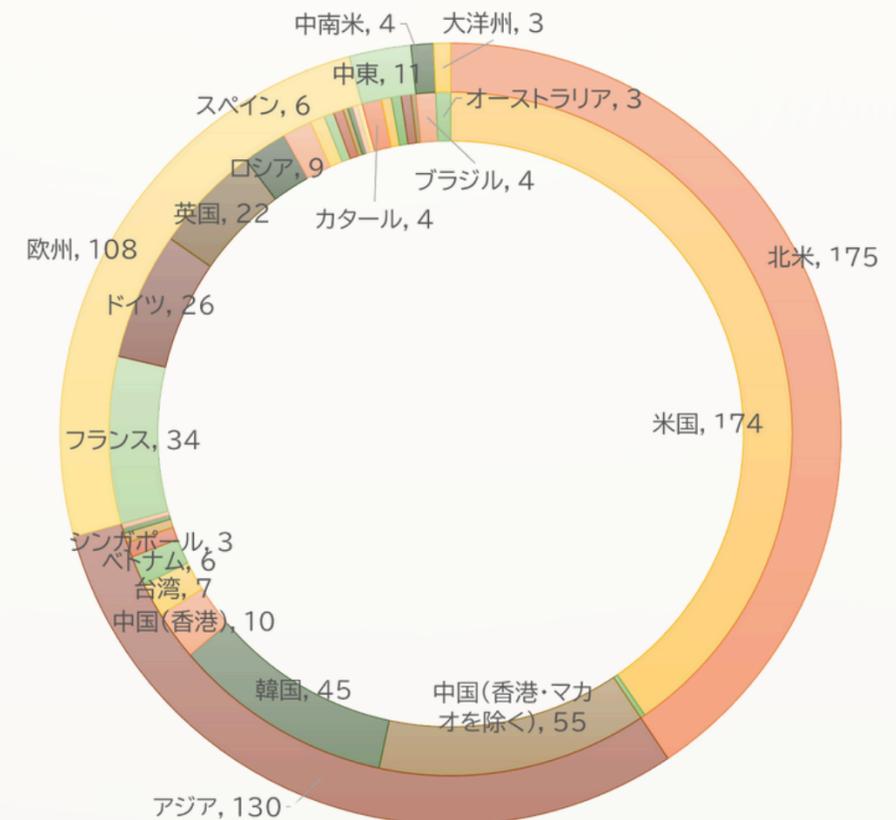


2025年2月1日現在、FPCJ調べ

主な機関



記者数 (エリア・国・地域別)



数字で見る2024年度のFPCJ

活動ダイジェスト

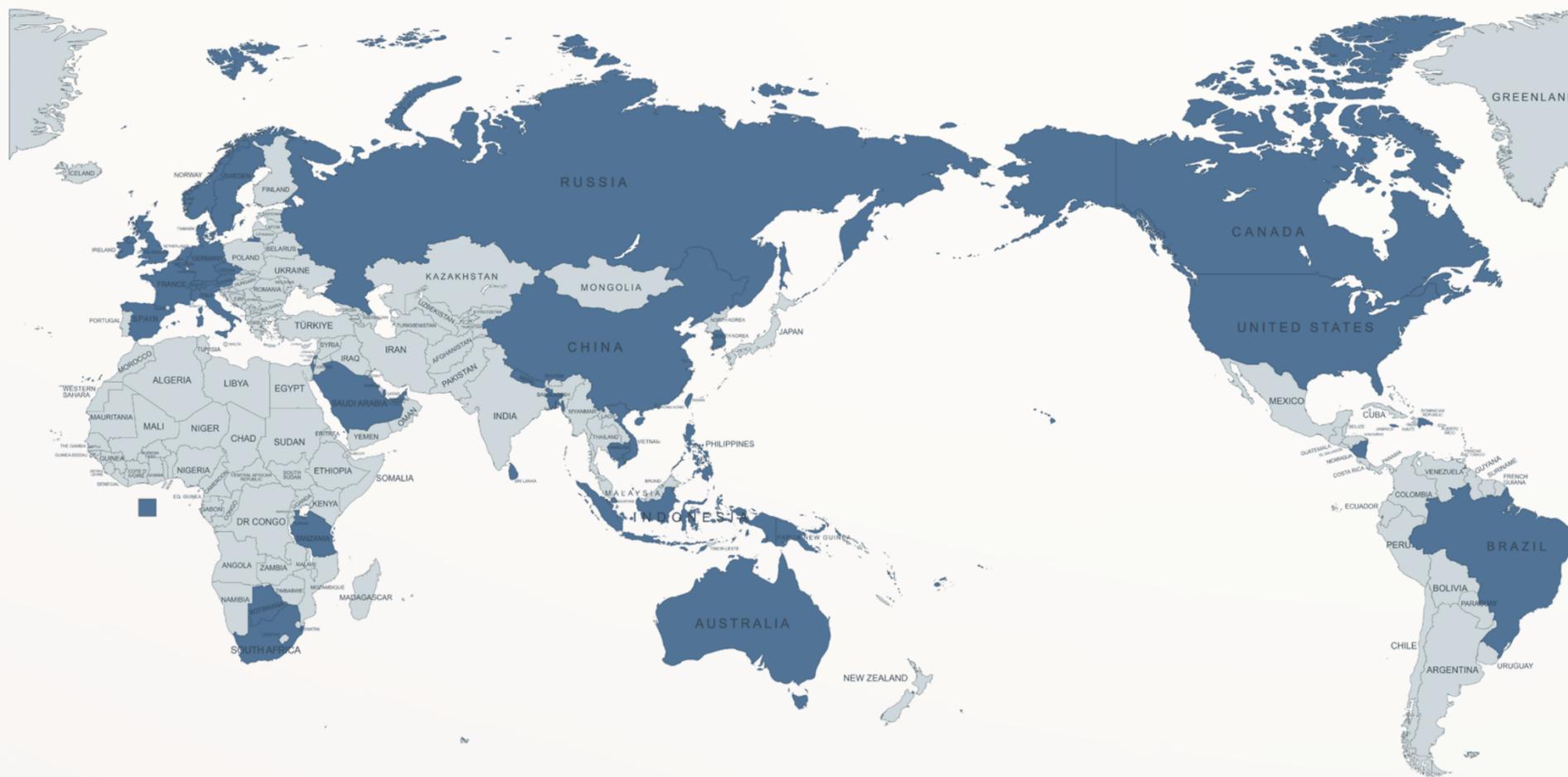
2024年度は、世界の注目が日本に集まる「大阪・関西万博」の開幕を翌年に控え、プレス・ブリーフィングやプレスツアー、海外からの記者招聘などの事業を積極的に展開しました。その結果、各国のメディアで合計498件にのぼる報道が行われ、日本の魅力や強みを世界の人々に届けることにつながりました。



数字で見る2024年度のFPCJ 活動の成果

2024年度も、世界中のメディアがFPCJに日本での取材について支援を要請するとともに、FPCJが運営する取材企画に参加しました。それらの活動の結果、世界中で「日本の今」を伝える数多くの報道が行われました。

取材を支援した 外国メディアの 機関国籍



取材を支援した
外国メディアの
機関国籍



か国・地域
(のべ数)

取材を支援した
記者の数



名
(のべ数)

報道件数



(報道件数は他媒体への
転載を含みます)



2024年度の事例

プレス・ブリーフィング

激動する国際情勢を受け、日本の外交・安全保障に関するテーマを特に多く取り上げました。年間で計40回開催し、のべ977名(そのうち外国メディアは425名)が参加。計210件の報道が確認されています。インターネットライブ配信により、海外からも記者が参加しました。



わが国の防衛と安全保障戦略

小野寺五典
元防衛大臣

自由民主党安全保障調査会長



骨太方針2024、
未来に希望を持てる経済社会を

中空 麻奈

BNPパリバ証券

グローバルマーケット統括本部副会長



世界を繋ぐ：
2025大阪・関西万博への道

石毛 博行

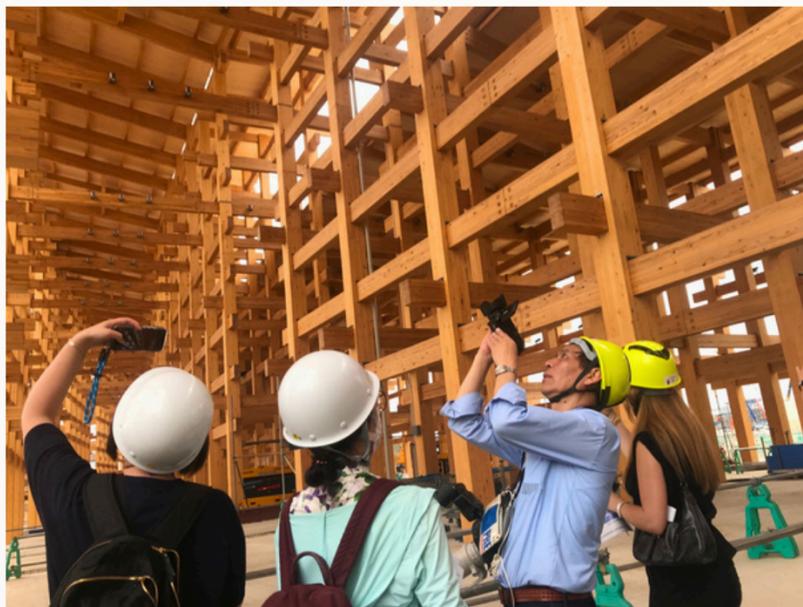
2025年日本国際博覧会協会

事務総長



2024年度の事例 プレスツアー

中央省庁や地方自治体等から事業を受託し、「大阪・関西万博」から「気候変動の影響」、「地域の伝統芸能や街並みの継承・保存」、「福島の復興」まで、多岐にわたるテーマで8件のツアーを実施(すべて1泊2日)。のべ80名の記者が参加し、計200件近い報道が生まれました。



「2025年大阪・関西万博」 事前プレスツアー

主催:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
万博開幕まで1年を切ったタイミングで、建設が進む「大屋根リング」やパビリオンを視察したほか、協会関係者から準備状況や万博開催の意義などについて聞きました。



岩手県プレスツアー

主催:岩手県

伝統産業である漆器や南部鉄器について、少子高齢化が進むなかでの後継者育成の取組や、海外輸出、現代のライフスタイルに合わせた新たな製品開発などを取材しました。



大分プレスツアー

主催:大分県

「自然と共生する大分」と「守るべき大分の歴史」をテーマに、気候変動の影響に対峙する現場や、地域の伝統芸能や街並みを継承・保存する取組などを取材しました。

2024年度の事例

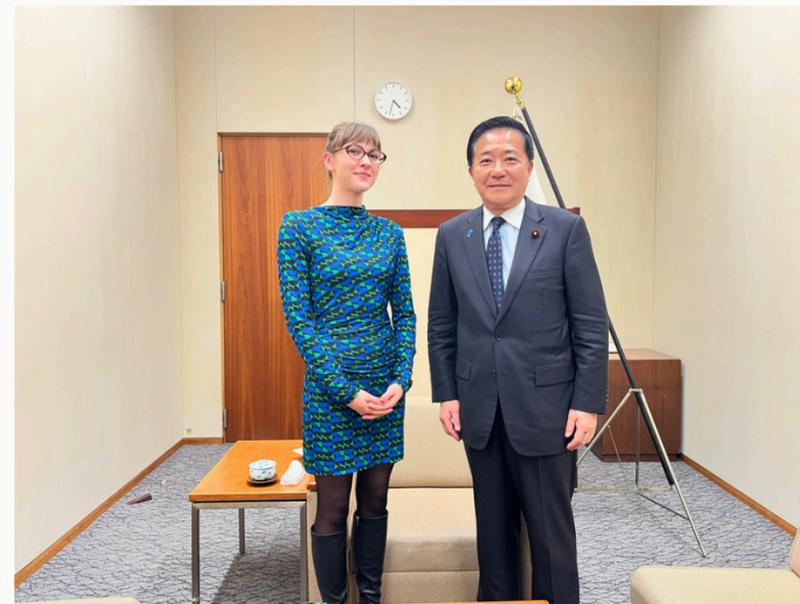
記者招聘

北米、豪州、欧州から計10名の記者を招聘しました。2024年度は、多くの記者が外交・安全保障を取材テーマに選んだのが特徴的でした。そのほか、一般財団法人国際協力推進協会(APIC)から受託し、太平洋・カリブ地域の記者を対象とする招聘プログラムを運営しました。



フランス「Le Figaro」
ニコラ・バロット記者

バロット記者は「防衛・安全保障:自衛隊の近代化」などをテーマに、海上自衛隊の護衛艦や沖縄の航空自衛隊那覇基地などを取材しました。



米国「CBS News」
ポリーナ・スモリンスキ記者

ホワイトハウス担当のプロデューサー兼レポーターであるスモリンスキ記者は、「日米関係と安全保障」をテーマに、外務省や防衛省、有識者らを取材しました。



APIC ジャーナリズム・
フェローシップ・プログラム

主催:一般財団法人国際協力推進協会(APIC)
太平洋島嶼地域及びカリブ地域の国々から来日した計6名の記者が、地方振興、観光、環境をテーマに、日本の先進的な取組を取材しました。

2024年度の事例 取材イベント

都内アンテナショップ等でのPRイベントや、オンラインによる記者発表会、個別の取材誘致など、自治体等が実施した計8件の外国メディア向け取材企画の企画・運営を支援しました。



海外メディア向け広報イベント 世界遺産登録決定記念 新潟県「佐渡」の食・文化

主催：新潟県

新潟県の情報発信拠点「銀座・新潟情報館THE NIIGATA」で、佐渡の食・文化の魅力を紹介するイベントが行われました。



東京スカイツリータウン 防災機能・研究拠点 外国メディア向け施設取材会

主催：東武タワースカイツリー(株)

東京スカイツリータウンで、その地震や台風への防災機能と、東京スカイツリーの高さを活用した研究拠点としての機能に焦点をあてた施設取材会が行われました。

国際ウェビナー



「人口減少と移民受入れ—日本が「選ばれる国」になるために—」

第一線で活躍する外国メディアの記者や有識者が、外国人労働者の受入れ拡大に動く日本にとってのあるべき移民政策とは何かについて議論しました。国内外から249名の申し込みがあり、139名が参加(視聴)しました。

交流会

外国メディアと日本側関係者のネットワーキングを目的に、恒例の賀詞交歓会を開催しました。



2025年 FPCJ賀詞交歓会

外国メディア記者のほか、日本の政府・自治体や経済界の関係者、開幕を4ヶ月後に控えた関西・大阪万博の関係者など、計282名の皆様にご参加くださいました。

支援した外国メディアの声



FPCJから提案された取材先のセクションが大変良かった。海外在住の記者が自力では手配できないようなインタビューが含まれており、本国を長期不在にするデメリットを上回る意義があった。

記者招聘(ドイツ)



自衛隊の幹部らから直接話を聞き、様々な現場を視察できたことで、日本の安全保障戦略における自衛隊の役割への理解を深めることができた。

記者招聘(フランス)



個人のフェローシッププログラムに参加するのは初めてだったが、自分の関心に合わせた取材を行うことができ満足している。実際に日本の環境の中に身を置いて取材活動を行うことができ、大変貴重な機会だった。

記者招聘(米国)



日本の地方創生の取組を様々な角度から取材でき、有意義なプログラムだった。

記者招聘(APIC/サモア)



(ツアー後に行った報道に対して)読者から、若者の地元定住を促進する取組や、伝統文化を大切にする若者たちに対する称賛の声が届いた。

プレスツアー(韓国)



日本の自治体の方々一人一人が自分の故郷を愛しているからこそ、その発展に全力を尽くしているのだと今回改めて知ることができ、大変感心した。

プレスツアー(中国)



FPCJの力添えがなければ、取材は実現できなかったと思う。今回のインタビューは、多くの中華圏の視聴者が関西・大阪万博の実像に関心を寄せる契機となった。

個別取材協力(香港)



佐渡には、金山、米、日本酒、鬼太鼓と、グローバルに通用するキラコンテンツが盛り沢山のものがよく分かった。

取材イベント(米国)



賛助会員のご紹介

(順不同)
2025年7月現在

企業 (26)

アクティオ
伊藤忠商事
カネカ
キッコーマン
京セラ
クレアブ
ゴールドウィン
サイマル・インターナショナル
サントリーホールディングス
資生堂
清水建設
SOMPOホールディングス
電通PRコンサルティング

東京電力ホールディングス
日本総合研究所
日本プレスセンター
日本旅行
博報堂
ブルボン
三井物産
FOOMA JAPAN運営事務局
三菱ケミカルグループ
三菱商事
森ビル
リングバンク
ローソン



メディア (14)

朝日新聞社
毎日新聞社
読売新聞グループ本社
日本経済新聞社
産業経済新聞社
中日新聞社
中国新聞社
ジャパントイムズ

共同通信社
時事通信社
日本放送協会
テレビ朝日
富山テレビ放送
日本国際放送

地方自治体 (8)

秋田県
熱海市
大分県
熊本県
神戸市
埼玉県
札幌市
富士河口湖町

団体・協会 (8)

経済同友会
笹川平和財団
中東調査会
日印協会
ニッポンドットコム
日本経済団体連合会
日本財団
日本新聞協会

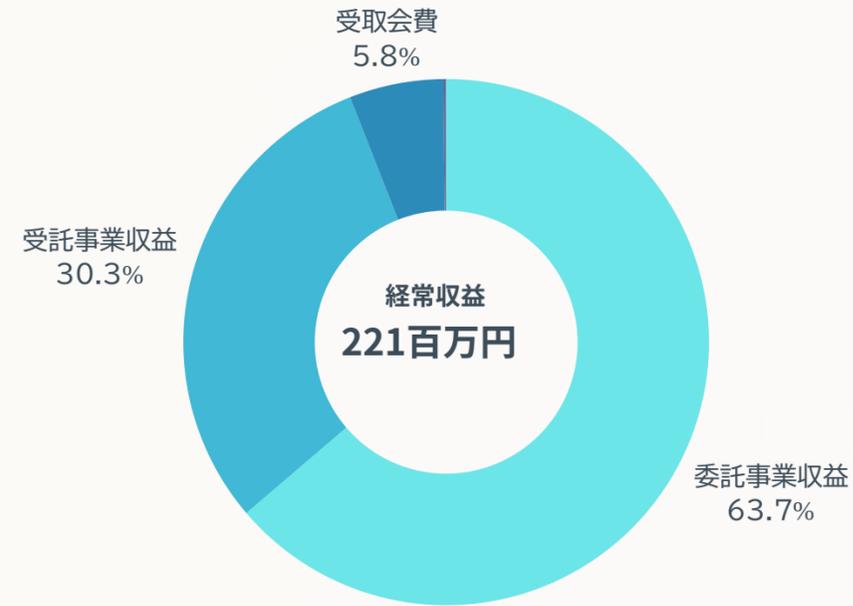
学校法人 (4)

桜美林大学
関西学院大学
谷岡学園
同志社大学

ご支援誠にありがとうございます



財務会計報告



経常収益	単位(円)
基本財産受取利息	312,080
受取会費・個人寄附金	12,805,000
委託事業収益	141,026,671
受託事業収益	67,027,888
雑収益	63,464
経常収益計	221,235,103



経常費用	単位(円)
事業費支出	203,660,621
管理費支出	9,116,903
経常費用計	212,777,524

- ・上記は一般正味財産です。
- ・事業費支出には、各事業に要する人件費支出、事務所費支出等の費用が配賦されています。
- ・会計報告の詳細はウェブサイトよりご覧いただけます。
<https://fpcj.jp/about/financial/>

FPCJは2026年に創立50周年を迎えます

団体概要

団体名	公益財団法人フォーリン・プレスセンター/Foreign Press Center Japan
所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル6階
TEL HP	03-3501-3401 https://fpcj.jp/
理事長	兒玉和夫
創立	1976年10月1日
事務局スタッフ	19名
SNS	 @fpcjpn  @FPCJapan

本資料に関するお問い合わせ

フォーリン・プレスセンター総括課
ga@fpcjpn.or.jp | 03-3501-3404